

第2期武蔵野市環境啓発施設運営会議（第3回）議事要録

日 時 令和4年1月25日（火）開会 午後6時 閉会 午後8時

開催方法 Web 会議システム使用によるオンライン開催

参加者 委員 10 名、事務局 6 名

小澤委員長、鈴木副委員長、光田委員、宮坂委員、中西委員、村井委員、新保委員、越智委員、奥野委員、朝生委員

1 議事

令和4年度事業計画について

2 報告事項

- (1) 新型コロナウイルスワクチン接種会場使用について
- (2) エコ re ゴート連携会議（12月21日開催）について
- (3) むさしの環境フェスタ実施状況について
- (4) むさしのエコ・チャレンジの開催について

3 その他

委員意見・質疑及び事務局回答

発言者	要旨
1. 議事 令和4年度事業計画について	
事務局	<p>資料1について説明。令和4年度の事業計画について、横軸を月ごと、縦軸を各事業として記載している。ワクチン接種会場としての使用が決まっている期間は、今年度とは様相を変えて実施しなければいけない。それぞれの時季ごとに、環境に関係するテーマを設定しており、また、8月には1階の再開を予定しているため、「来館促進」というテーマを置いている。次年度は気候市民会議という新しい会議が発足し、「2050年ゼロカーボンシティ」を目標としたアクションプランの策定を予定している。次年度の運営会議は、2か月に1度の開催を予定しており、コロナの状況次第だが、視察研修も検討している。また、連携会議については従来の形を変えた意見交換の場となる。</p> <p>「啓発事業」では次年度も補助金の申請を受け付ける。情報発信事業では、啓発冊子の改訂を予定。配布されているタブレットを活用した、ウェブコンテンツとの連動も視野に入れている。「こどもエコクラブ」は市内で自主的に作られたグループがあるが、エコ re ゴートとの連携は実施しきれていないため、来年度の課題となる。</p> <p>環境の学校は今年度と同じ「環境の学校連続講座」「環境の学校 Green プロジェクト」「環境の学校 PR プロジェクト」を実施する。従来は9月頃の講座開催だったが、次年度はもう少し早い開催を予定している。</p> <p>「イベント等事業」における「環境フェスタ」「5市共同事業環境キッズフェスタ（仮称）」は、従来開催していた「環境フェス</p>

	<p>タ」を武蔵野市以外の4市（三鷹市、国分寺市、小金井市、国立市）を含め規模を広げて、謎解きやスタンプラリーなどの企画を実施する予定。従来の「むさしの環境フェスタ」については、5市共同事業の様相が決まり次第、開催方法を検討していく。通常6月の環境月間に合わせて実施していた「環境展」については、コロナワクチン接種会場の影響を大きく受ける可能性が高い。来年度は出張展示等、アウトリーチでの開催を検討している。「緑のカーテン事業」は今年度、レポーター募集との組み合わせで実施した。来年度はGreenプロジェクトと連動し、参加者にゴーヤ苗を配るなどの組み合わせを検討している。「むさしのエコ・チャレンジ」ではそういった連続講座などでの学びや関心のある事、働きかけたいことなどを発表しあえる場を提供する。開催は今年度が初めて。</p> <p>「施設体験事業」の施設見学では、クリーンセンターとのセット見学を実施する。「SDGsカードゲーム」はワークショップ形式のカードゲームで、エコreゾート職員が来館者へ説明できるようになるために研修に参加する予定。8月以降、ものづくり工房運営の再開や、展示でも、環境省のクールチョイスの展示を借用するなどの充実を図っていく。</p> <p>「連携事業」ではクリーンセンターで開催される事業との連携を行い、また、サポーター事業はワクチン接種会場としての使用が終わったのち、本格稼働する予定である。併せて、施設の貸出についても接種会場使用が終わった後に、開始となる予定。</p> <p>流動的な部分もあるが、現状の予定は資料のとおりとなる。検討が必要な箇所として、連携会議の項目に記載のある団体・市民との接点づくりのこと。また環境展など、出張やアウトリーチで行う手法の検討のこと。そして、1階が再開した際にどのような形での周知を図るか、といったことが挙げられる。</p>
委員	<p>施設体験事業の小学生の施設見学は、コロナ禍ではなかなか難しいと思った。今年度は実施できたのか。</p>
事務局	<p>数は限られるが今年度も学年ごと、クラスごとで来館し、クリーンセンターとエコreゾートを時間で入れ替わって見学する方法で実施した。比較的近い、近隣の小学生の見学が多い。往復バスの利用の働きかけも行い、第二小学校見学の際に利用いただいた。</p>
委員	<p>せっかくの施設なので見に行けるとよいが、遠いところ、人数が多いところはなかなか行きにくい。来年度も各校難しい判断を迫られると思う。</p> <p>一つの提案は、児童・生徒が施設に行くのではなく、学校に出張したりオンラインでつないだりして、施設の紹介やエコreゾートでの取り組みなどをレクチャーするのはいかがか。</p> <p>セカンドスクール等で既に行っているように、事前にオンラインでつないで、エコreゾートの施設やその取り組みを学んでもらうなど、ワクチン接種会場で使えない間を利用し、施設をまず知ってもらう機会も広くつくっていただきたい。</p> <p>小学生だけでなく、未就学児の保育園等へ簡単なエコの話をする出張授業等、学ぶ機会を検討いただけたらと思う。</p>

事務局	個別の話ではあるが、学校の調べ学習の際にゲストティーチャーとして、オンラインで講義を行った。また市民の集まりで話してほしい等の話もある。私たちでできるメニューやツールを使っていただけそうなところに、今後お知らせしていきたい。
委員	先の委員の出張の話は良い提案で、本当に協力してやったらいいと思う。近くの方は結構エコ re ゾートに行っていて、段ボールや廃材を使ったおもちゃを作る等の体験している。それをビデオに撮って紹介したり、アーカイブ的に蓄積したりして、問い合わせがあったときに見られるようにするといいいのではないか。
委員	啓発事業として、環境の学校や Green プロジェクトというのがある。市民参加型で非常にいい企画だと思うのでさらに充実をお願いしたい。 02 の情報発信事業にある「こどもエコクラブ」は、SDGs のゲームや自然体験事業にも絡んでくる。夏休み前に『武蔵野市の自然』の改訂版の話があるということなので、小学生が夏休みの自由研究のテーマで環境問題を取り上げたいような企画、やり方で進めてもらいたい。小学生が自由研究で取り上げ、エコ re ゾートの中でも話題にすれば、PR 効果が上がり、市民への浸透度が高くなるのではないか。
委員長	今、学校教育では「SDGs」は避けて通れない。エコ re ゾートのスタッフがまず勉強するというところで、SDGs ゲームを広めてほしい。ある高校生が SDGs について「とても 17 の色だけでは(足りない)」という表現をしていて、クリティカルに中身を見ていかないといけないことをしっかりと捉えていた。子どもから大人も学ぶ、大人も一緒に学ぶという姿勢で進めてもらいたい。
委員	計画カテゴリーの中の気候市民会議が気になっている。こちらの会議の中心はエコ re ゾートということになるのか。また、こちらの会議で決まったことや、進捗(しんちよく)を伺う機会は今後もあるのか。
委員長	武蔵野市は「2050 年ゼロカーボンシティ」を表明している。今後は脱炭素化に向けて、委員とともに市として検討していくということか。
事務局	気候市民会議については、エコ re ゾートはその啓発が中心で、環境政策課計画係と一緒に進めていく。 会議では、「2050 年ゼロカーボンシティ」や 2030 年の数値目標等に向けて、実際に市民一人ひとりが何をどう行動すればよいのか、みんなで考えて行動変容につなげていく方法を検討していく。 これから始まるので、途中の経過といったものについて、随時お知らせしていく予定。
委員長	2021 年 4 月に出た「武蔵野市地球温暖化対策実行計画」に基づいて、エコ re ゾートと情報共有しながら一緒に議論し、共に行っていけるとよいのではないか。
委員	4 月からプラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律が施行されるが、まだ武蔵野市の対応は決まっていないので、この会議が重要な会議になると思っている。詰め替え容器、代替プラスチッ

	<p>ク等の話は、生活変容に重要で、リサイクル等の啓発も含めて、市民会議の中で連動した動きができるとうい。</p>
事務局	<p>一般廃棄物処理基本計画は、ごみをどうしていくかという総合的な市の計画で、来年改定になる。ごみの多くを占めるプラスチックの扱いは大きな課題であるが、プラスチック新法（略称）で、容器リサイクルのプラスチックに関しては、ある程度その形ができています。さらに、おもちゃや文房具の物差し、ハンガー、バケツ等のプラスチック製品についても、国がメスを入れるような段階になっている。</p> <p>生活の中で、分別や一括収集等は行政の収集の問題と関わってくるので、その方向性を来年の計画の中で打ち出し、情報を提供していきたい。</p>
委員	<p>先の委員のご意見の外に出向いていく講座というのは大変いいと思うが、保育園、幼稚園の子どもたちには堅い話、長い話はそれほど有効ではないと思う。エコ re ゾートでは、家庭からのごみや廃材を、素材として遊びなどに活用できるように、ストックをされていると思うので、そういった蓄積が実際あるという情報発信をしてほしい。</p> <p>保育園、幼稚園でも実際行われているが、集まってきた素材や廃材が子どもたちの手でクリエイティブなものに生まれ変わり、親しんでいく経験は、同時にその親世代がクリーンセンターやエコ re ゾートという存在を知る機会にもなり、その認知を広めていくということにもつながっていく。</p> <p>乳幼児向けの施設等と連携する必要性がますます強くなっていくと聞いているので、具体化な会議や報告ではその観点もぜひ入れていただきたい。</p>
委員長	<p>ある県では、災害後にプラスチックではなく、木製の遊具を導入することに補助金を出して、どういう遊具がいいかを検討している。特に保育所や幼稚園の子どもたちに、いいものを触ってもらうことは大事だと思うので、スタッフの方とも一緒に考えていただきたい。</p>
委員	<p>8 月に来館促進プロジェクトとある。これはサマーフェスタの実施とその成果発表につながっているように思えるが、何か連携を考えているのか。来館促進のイベントはまた別にやるということか。</p>
事務局	<p>8 月の来館促進はどのような企画を組み合わせるかを今検討している。展示では、8 月は COOL CHOICE や SDGs の水に絡む展示の観覧・参加ができるよう、従来の団体での取り組みと一緒に体験できる形にし、このサマーフェスタの中で行うように調整したいと思っている。</p> <p>分散して個別にやるより、ある所に意図を持ってまとめて実施の方が効果的と考え、8 月はいろいろな企画を複合的に組み合わせ、週替わりでイベントをやれたらと思う。具体的なことは相談しながら進めていきたい。</p>

委員	<p>コロナの状況で、長い期間、ワクチン接種会場になっている。以前、ワクチン接種に来た人たちにエコ re ゾートや掲示を見てもらうという PR 的なお話があった。これだけ長いのであれば、PR の内容を少し変化させるなどの工夫をして、もう少し長く見てもらうようなことができないか。</p>
委員長	<p>市役所工事のため、本来は市役所に貼る予定だった明るい選挙ポスターが、エコ re ゾートの 2 階のこの会議室の壁面に貼られている。こういったものもぜひ共有して進めていただければと思う。</p>
2. 報告事項	
事務局	<p>資料 2 について説明。昨年 10 月期と同様に 1 月 21 日からのワクチン接種会場使用に伴い、17 日から 2 階のみの開館となる。2 階アーカイブコーナーを拡張するなどの工夫を始めている。</p>
委員長	<p>2 階のほうは書籍が充実している印象を受けるので、2 階に来てみていただければありがたい。</p>
事務局	<p>資料 3 について説明。連携会議はもともとこの施設を開館するにあたり、市民団体・事業者・教育関係などいろんな立場の方が集まって施設の使い方を検討してきた。コロナ禍の影響を受け、書面開催に変更となり、またエコ re ゾートも制限も受けた形での開館となったため、これまでの経過と今後の展望についての説明のために、第 18 回を開催した。開催形式は実地とオンラインのハイブリット形式。</p> <p>会議の中での意見と、集約したアンケートを掲載している。利用のルールに関しては、これまでも会議内で取り上げており、齟齬はないと考える。特徴的な点として、単なる貸館、貸スペースとするのではなく、借りたい方がどのような目的で、どんなことをやろうとしているのか、コミュニケーションをとりながら使い方を提案してけるようなシステムにしており、利用のルールを考える上で重要な前提として捉えている。</p> <p>サポーター制度の件については、集まった人たちに 1 から考えてもらうのではなく、こちらで予め検討した事業に対し、さらにその事業をより良いものにするためにサポーターに参画してもらう方法を採用し、より関わりやすくすることとした。これまでの連続講座の受講生にも声掛けをし、十数名の方から関わりに賛同いただいている。</p> <p>連携会議の今後については、一旦体制を変えて、新しい仕組みで会議を開催していくこととなる。やはりいろんな方が意見交換できる場は継続すべきという意見があり、また改めて広いネットワークの形で連携できればと考える。</p>
委員	<p>この連携会議は、60 の各団体が自分たちが環境への取り組み、施設ができたらかうやりたいという意見がものすごく上がり、参加していて熱い感じを受けた。</p> <p>エコ re ゾートができて「さあ行くぞ」というときに、コロナが発生し出ばなをくじかれた感もあるが、意見を聞いていても困難に負けない思いがまだある。環境をテーマに挙げて、今度こそ活動内容が高まっていくのではないかと。名前を変えてでも継続していくべき</p>

	<p>だと思う。</p>
事務局	<p>資料4についての説明。現在実施中のむさしの環境フェスタについて報告する。今年度の環境フェスタは施設の周知や市民への環境啓発、3駅圏へのアウトリーチといった目的を持っている。「むさしのサステナ! by 3S」をコンセプトに、出張展示やイベント、オンラインでの記事公開を行った。</p> <p>会場や実施日時、内容を資料に記載している。具体的には、ギャラリーでのポスター展示を行い、また、むさしのFMと連携したラジオの公開収録を行いオンライン上で放送が聞けるようになっている。ゴールとなる指標としては、サイトの閲覧数やどのような方法で参加してもらったかを測る予定。オンラインでは、小学生から高校生世代の Youth 記者に、環境問題に取り組む団体や企業に取材をしてもらい、それらをまとめた記事を公開している。</p> <p>3月5日にはエコ re ゴートで廃材クラフトワークショップ開催するが、その素材の作成にあたり、吉祥寺や武蔵境でイベントを実施する予定。</p> <p>ポップアップ会場の様子を写真で掲載している。12月に開催した武蔵境の nonowa テラスでの実施時は100名程度にご参加いただいた。また、すきっぷ通りでの展示ではPRプロジェクトの受講生に参加してもらいチラシの配布などを行った。ポップアップ展示のポスターではオンラインの記事を写真やキャッチコピーとともに紹介している。「エコころがけ」のコーナーでは、来場者にエコに関する心掛けを記入してもらった。「捨てられないもの展」では家に眠っている捨てられないものについて投稿してもらい、コーディネーターから環境に関して知ってもらおうきっかけのコメントを掲載した。</p> <p>オンラインの閲覧者数については資料に記載のとおり。今後も3月5日に向けてSNS等で発信していく予定。Youth記者、そして取材にご協力いただいた企業や団体も掲載している。昨年から引き続き掲載した団体・企業が多いが、今年初めて掲載にご協力いただいた団体・企業もあり、ぜひウェブで閲覧していただきたい。</p>
委員	<p>すてきな取り組みだと思った。「環境」だけのフックだと引っ掛からない人たちや、会場で待っているだけでは来ない人たちには、三鷹駅北口のマルシェのように、街中で見かけたり、環境以外のイベントとのコラボ等が増えていくと認知が広まっていくと思う。</p>
委員	<p>資料の一番最初に「Youth記者によるインタビュー記事10本」とあり、一番下に「Youth記者の行動変容」とあるが、これはYouth記者の意識が変わって環境に対して関心が非常に高まって何かやったとか、やろうとしているというところまでを意味しているのか。</p>
事務局	<p>基本的にはその認識。行動変容としてどこまで求めるかを具体的に決めているわけではないが、企業のCSRについて、環境の部署の方と話をすることで、身近な地域の企業や団体の取り組みに気付いてもらうことをスタート時点では目指している。今後エコ re ゴートに来ていろいろな事業に参加し、つながり、きっかけを持つところが最初の目的なのかなと思っている。</p>
委員長	<p>よく環境教育で体験学習と言われるが、お子さんでも大人でも意</p>

	<p>識変容、行動変容まで結び付けていくことがとても大事。今、ESDを通してSDGsに貢献することが言われている。ただ17の項目の色を知ればいいということではないことを、記者の方たちが自分の言葉で語る大切さが出てきたかなと思って伺った。</p>
事務局	<p>資料5、6について説明。むさしのエコ・チャレンジの開催について、3月5日・6日に開催を予定している。発表会では、連続講座修了生、こどもエコクラブの活動参加者、及び緑のカーテンレポーターの中でも優秀なレポートを提出いただいた方の発表及び修了証の授与を行う。また、先に説明した環境フェスタのイベントを開催する。これまでの環境フェスタで開催していた団体の出展展示はエコ・チャレンジ内で「チャレンジ提案」という形で募集し、場を設けている。今年度はワクチン接種会場の使用に挟まれる形での開催となり、広報活動にも力を入れる予定ではあるが、継続して来館している方への周知が行き届かない部分もある。環境に関心のある方々の来館は見込まれるので、その方々に向け、団体としてどのように接点を持てるのか、従来とは違う形にはなるが出展を検討してもらおうと考えている。</p>
委員長	<p>3月の土日はワクチン接種はないのか。</p>
事務局	<p>この5日、6日は空けていただく。ワクチン接種会場をこれに合わせて撤去し、終わったら、またワクチン接種会場に戻る形になる。</p>
委員長	<p>ここのスタッフの方がワクチン接種会場を作るのか。</p>
事務局	<p>ワクチン接種会場には、設営・運営のための事業者が入っている。このエコ・チャレンジをするための場づくりは、エコレポートのスタッフが行い、終われば真っさらに戻し、事業者がワクチン会場に戻すという形になる。</p>
委員長	<p>この活動についての動画等はオンラインで配信されるのか。</p>
事務局	<p>まだそこまで準備できていないが、環境の学校の連続講座をグラフィックレコーディングで記録しているスタッフがいるので、この成果発表会の様子を、グラフィックレコーディングで書き留めておくことは想定している。ウェブ上で、またオンラインでこれを見ていただける機会を実現できるように考えたいと思う。</p>
<p>3. その他</p>	
事務局	<p>1月23日に行われた環境の学校の最終回の参加者の中で、コロナウイルスの陽性者が判明した。講座中は参加者全員がマスクをずっと着用、一定の距離を保っていたので濃厚接触者ではないと定義付けられている。案内を参加者に送付し、また、本日市のホームページでその情報を公開した。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p>